

# LOBO 調査

## 早期景気観測

7月 日商調査日 7月8日～22日  
当所調査日 7月8日～23日

### LOBO調査とは

全国各地の商工会議所が参加して、日本商工会議所が実施する全国規模の早期景気観測調査。当所ではさらに、商工振興員の皆さまにも調査へのご協力をいただき、より地域に根差した調査を実施。

### 日商調査

7月の全産業DI ▲20・2  
(前月比 ▲1・9ポイント悪化)

### ○中小企業の景況感

深刻な人手不足による受注機会の損失や人件費・外注費の増大、原材料費の高止まり、コスト増加分の価格転嫁の遅れ、消費税引き上げ分の影響、米中貿易摩擦や世界経済の先行き不透明感が中小企業のマインドを押し下げており、足踏みが続いていた中小企業の景況感は、足元で弱い動きが見られる。

### ○中小企業の業況感

根強い消費者の節約志向に加え、気温の低い日が続く、夏物商材の需要が低迷した小売業や、例年より長い梅雨の影響で客足が減少した飲食・宿泊業を中心とするサービス業の業況感が悪化した。

### ○プラス要因

都市部の民間工事を中心とする建設業の底堅い動きや堅調なインバウンド需要が下支えした。

### ○先行き

先行き見通しDIが ▲20・1 (前月

比+0・1ポイント) 好転。  
○期待感  
個人消費の拡大やインバウンドを含む夏の観光需要拡大への期待感がうかがえる。

### 【関東ブロックの業況についてのコメント】

当社の製造部品は中国などのアジア向け製品に組み込まれており、貿易摩擦の影響は大きい。協議再開後も政治状況から予断を許さないと考えている(計量器測量器等製造業)。

夏のセールが始まったが、気温の低い日が続いている影響で夏物衣料品を中心に苦戦しており、前年割れは避けられない状況。現段階では消費税引上げ前の駆け込み需要は見られないが、梅雨明け後の消費動向に期待している(百貨店)。

例年より長い梅雨の影響に加え、消費者の節約志向が根強く、客数・客単価ともに落ち込んだほか、野菜などの材料費の仕入コストも上昇しており、売上・採算ともに悪化した(飲食業)。

### 当所調査

当所調査「全体平均DI」は3カ月連続での悪化

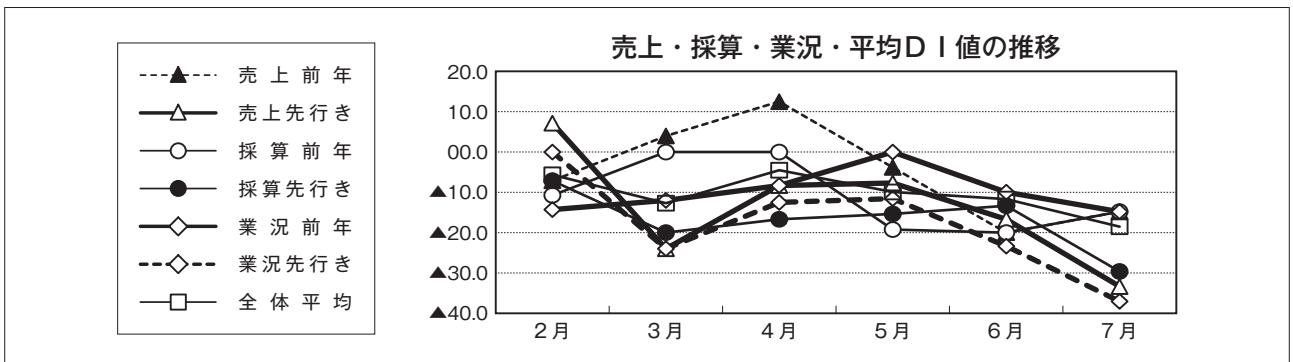
全体平均DIは ▲18・5ポイントで、前月に比べ ▲6・8ポイントの悪化。

項目別では、前月と比較売上先行きが ▲16・6ポイント、採算先行きが ▲16・3ポイント悪化した。

寄せられたコメントには「10月からの増税や年金2,000万円問題の報道などにより、消費者の財布のひもが以前より堅くなったと感じている」「菓子製造小売業」という声が聞かれた。

(全産業) 水戸商工会議所商工振興員LOBO調査(DI値推移) (サンプル数40社)

項目	平成30年		平成31年				令和元年	
	7月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	
売上前年	▲26.9	▲7.1	4.0	12.5	▲3.8	▲20.0	▲14.8	
売上先行き	▲11.5	7.1	▲24.0	▲8.3	▲7.7	▲16.7	▲33.3	
採算前年	▲30.8	▲10.7	0.0	0.0	▲19.2	▲20.0	▲14.8	
採算先行き	▲15.4	▲7.1	▲20.0	▲16.7	▲15.4	▲13.3	▲29.6	
仕入前年	▲34.6	▲32.1	▲56.0	▲25.0	▲42.3	▲26.7	▲37.0	
仕入先行き	▲38.5	▲39.3	▲48.0	▲29.2	▲38.5	▲40.0	▲40.7	
社員前年	15.4	14.3	20.0	25.0	26.9	20.0	14.8	
社員先行き	15.4	25.0	32.0	20.8	26.9	20.0	14.8	
業況前年	▲26.9	▲14.3	▲12.0	▲8.3	0.0	▲10.0	▲14.8	
業況先行き	▲23.1	0.0	▲24.0	▲12.5	▲11.5	▲23.3	▲37.0	
資金前年	▲15.4	▲7.1	▲8.0	0.0	▲11.5	▲3.3	▲11.1	
資金先行き	▲15.4	3.6	▲16.0	▲12.5	▲23.1	▲6.7	▲18.5	
全体平均	▲17.3	▲5.7	▲12.7	▲4.5	▲9.9	▲11.7	▲18.5	



\*DI値(景況判断指数) = (増加・好転などの回答数 - 減少・悪化などの回答数) / 全回答数 × 100。ゼロを基準として、プラス値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものでなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味するもの。